

口腔病学会共催 歯学部新任教授による講演会のお知らせ

2024年6月17日（月） 17：00～18：40

登録制Zoom配信のため、事前登録が必要です

『口腔免疫難病の病理』



石丸 直澄教授
(口腔病理学分野)

口腔領域には多種多様な病変が存在し、ユニークな環境の中でそれぞれ複雑な機序を介して発症することが知られているが、多くの病変では詳細な病因が不明なままであり、患者のQOLを大きく損ねることにつながっている。その中で、ドライマウス、ドライアイを主徴とするシェーグレン症候群（シェーグレン病）は、口腔症状ならびに口腔機能の低下とともに全身症状を伴う難病（指定難病53）である。

シェーグレン症候群の患者検体に加え様々な疾患モデルを用いて極めて複雑な病態が明らかにされてきた。本講演では、シェーグレン症候群の疾患モデルの開発から明らかにされた本疾患の多因子病因論に加え、新たな診断法および治療法の開発への可能性について詳説し、皆様と議論を深めたい。

『生涯にわたる口腔保健支援： 研究と教育の取り組み』



竹内 康雄教授
(生涯口腔保健衛生学分野)

口腔の健康は人々の生活の質（QOL）や健康寿命に直結する要素となっており、歯科口腔保健活動の基礎・裏付けとなる口腔保健学研究は、今後も積極的に実施され、その成果を広く社会に還元していくことが求められている。口腔保健学研究は、保健・医療・福祉分野など関連分野とも連携した総合的な科学的研究分野であるが、歯科、なかでも歯周病学に関する研究は、口腔疾患の治療や予防において基盤となるエビデンスを提供している。生涯にわたり口腔の健康支援を行う歯科衛生士の果たす役割の重要性は増す一方で、超高齢社会を迎えたわが国において、医療資源・人材は限られている。今後、研究成果を活用してより効率的・効果的に口腔保健支援を行い、社会全体の健康増進を図ることが期待される。演者はこれまで、臨床的な視点から歯周病における細菌がその病態や全身の健康に与える影響、また治療法（感染のコントロール）に関する研究を多角的に進めてきた。本講演では、これらの結果を紹介させていただくとともに、今後求められる口腔保健学研究や歯科衛生士教育について概説したい。



事前登録は、[こちら](#)もしくはQRコードよりお願いします。
当日は本学の機関登録をしたZoom IDでログインしてください。

登録後、ミーティング参加に必要な情報を含む確認メールが届きます。
ミーティングID、パスワードを含みますので大切に保存してください。

お問い合わせ先 総合診療歯科学分野 新田 浩・城戸大輔（口腔病学会例会担当）

kidperi@tmd.ac.jp